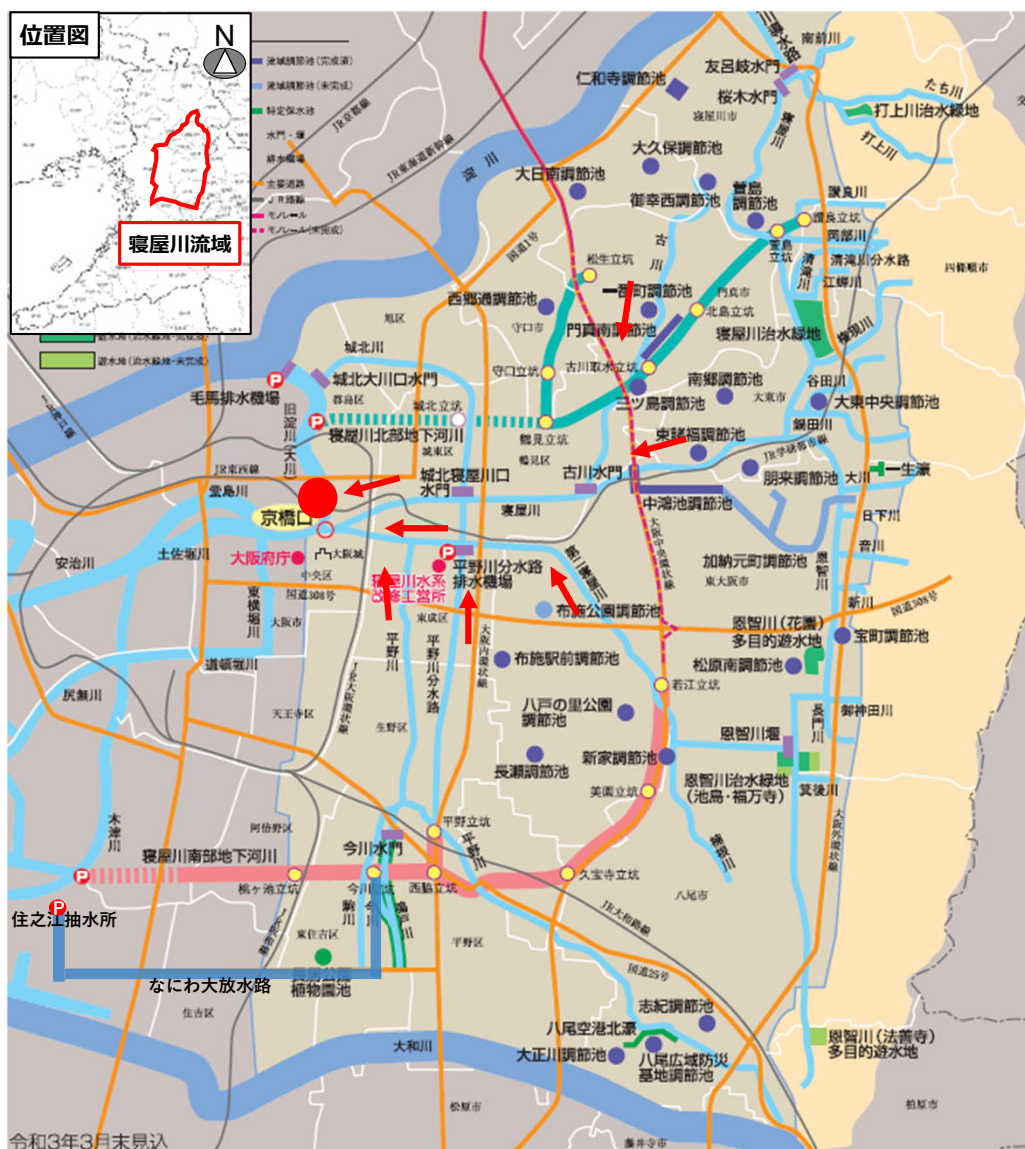
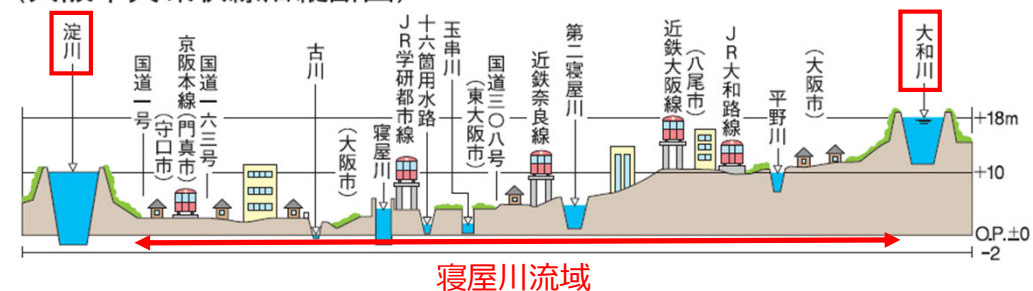


- ・寝屋川流域はその大部分が低平地であり、流域の約3/4は雨水が自然に河川に流れ込まない「内水域」であり、下水道により雨水を集めポンプで強制的に河川へ排水が必要。
- ・流域からの出口が京橋口1つしかないため、流域内で降った雨が流域外に流出しづらい。
- ・厳しい地形条件の中、流域には大阪府全体の約3分の1の人口や企業が集積しており、洪水から暮らし経済活動を守るため、国、大阪府、流域市が協力し、河川と下水道と流域が一体となった治水対策を進めている。



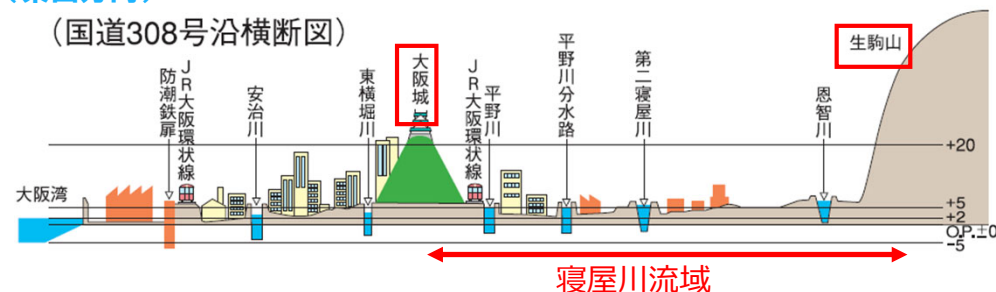
(南北方向)

(大阪中央環状線沿縦断面図)



(東西方向)

(国道308号沿横断面図)



■ 寝屋川流域の特徴

流域面積 : 267.6km² (府面積の約14%)

流域人口 : 約273万人 (府人口の約31%)

流域資産 : 約57兆円 (府資産の約29%)

(H27年国勢調査およびH29年経済センサスに基づく)

■ 活発な経済活動

年間製造品出荷額 (東部大阪)

約 6兆3千億円 (令和6年度) 大阪府の約3割

年間商品販売額 (東部大阪)

約20兆6千億円 (令和3年度) 大阪府の約4割

■ 流域治水プロジェクトの推進

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- 被害対象を減少させるための対策

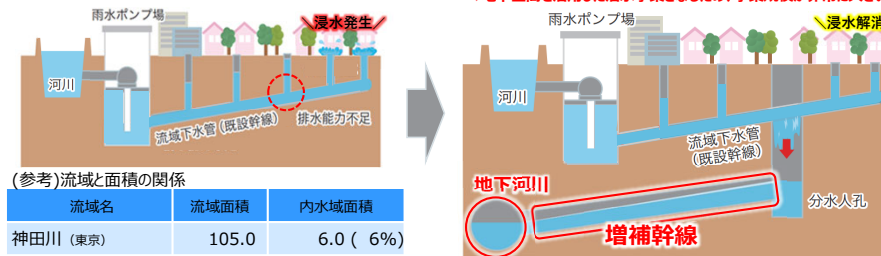


- ◆ 都市化の進展により 下水管の排水能力が不足
- ◆ 市街化の進展により 地上河川の拡幅が困難
- ◆ ほとんどが下水道を経由してポンプ排水が必要な内水域

【対策後】

**地下空間を活用して河川事業と下水道事業が連携し、
効率的に浸水対策を推進**

→地下空間を活用した治水事業となるため、事業規模が非常に大きい。



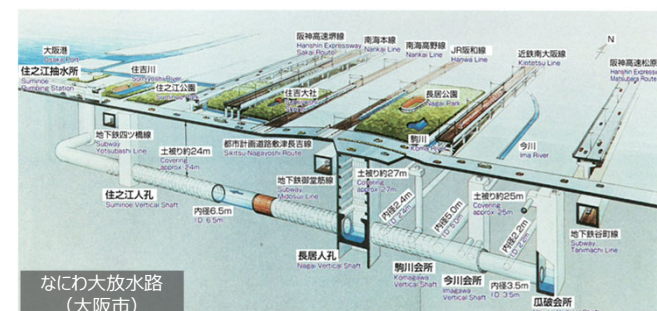
広域的に
雨水を受ける
地下河川

下水道增補幹線

下水道增補幹線

流域名	流域面積	内水域面積
神田川 (東京)	105.0	6.0 (6%)
鶴見川 (神奈川・東京)	235.0	53.0 (23%)
寝屋川 (大阪)	267.6	205.7 (77%)

- ◆ 他の流域より、水域面積が飛び抜けて大きい



② 遊水地事業 供用済み5箇所

供用済み 5箇所

平常時は公園として利用



③ 流域調節池事業

供用済み 25箇所 事業中 1箇所

断面図(三ツ島調節池)

断面図(三ツ島調節池)



雨水流入の様子→



④ 雨水貯留

